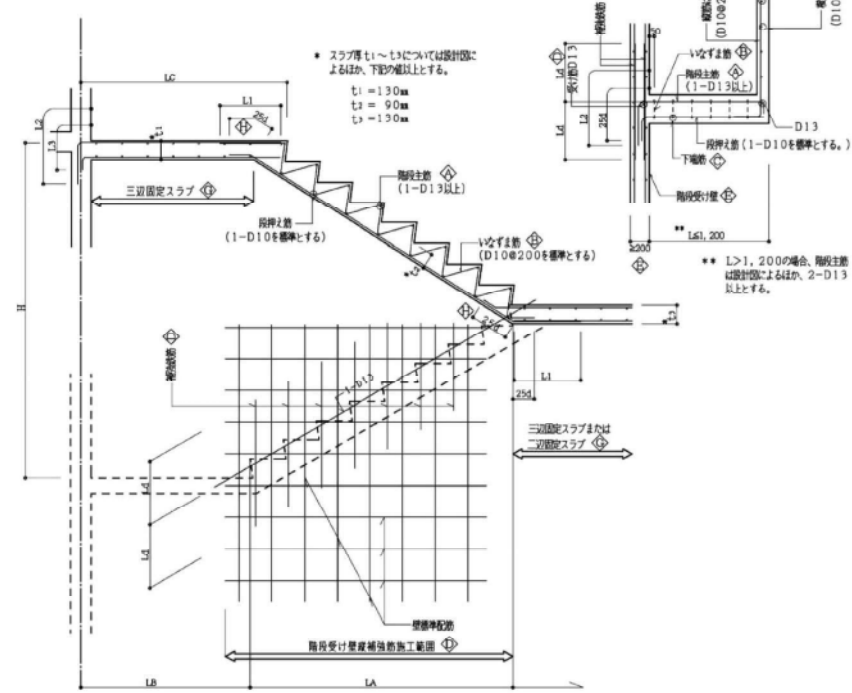


R-4.6

階段配筋詳細図

1) 片持階段の配筋 [住棟内]

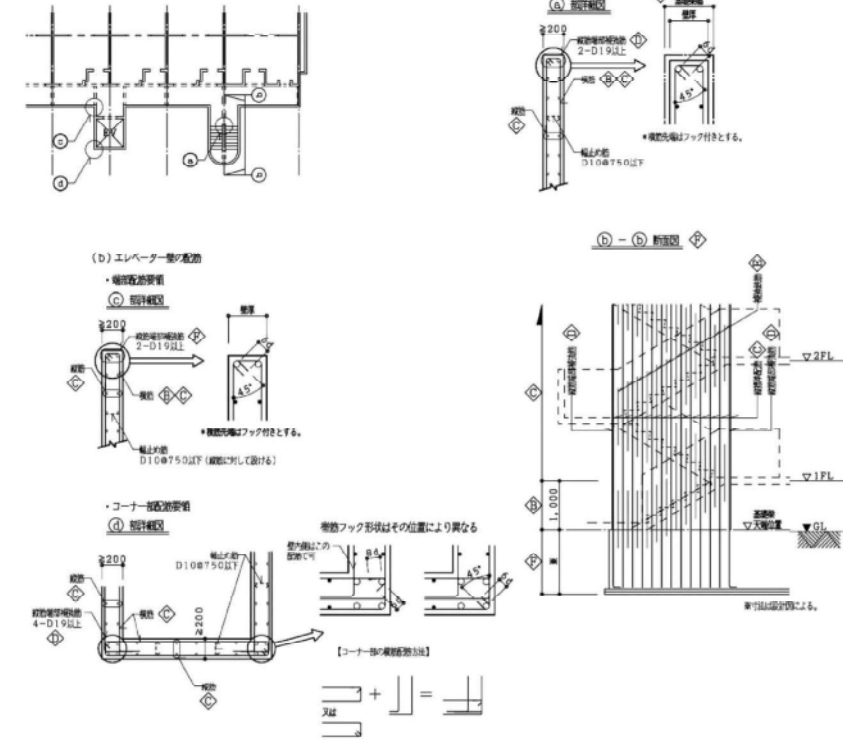


公共住宅標準詳細設計図集

仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>階段主筋は設計図によるほか、1-D13以上とする。</li> <li>いかなる主筋もD10@200を標準とし、階段受け壁より50mmの位置に等しい寸法を配筋する。</li> <li>下階筋はD10@200を標準とする。(ピッチは異なる階と同一とし、いかなる主筋の間に配筋する。)</li> <li>片持階段受け壁に接する段床の曲げ補強筋の有無、及びその定着長さLdは設計図による。</li> <li>階段受け壁の厚さは200mm以上とする。</li> <li>屋外階段受け壁の配筋については、R-51-3を参照する。</li> <li>階段手すりの配筋要領は片持スラブ先端の手すりの配筋要領 (R-51-7) に準ずる。</li> <li>踊り場のスラブは三辺固定スラブ、または二辺固定スラブとして計算した上でモメンツ配筋を行うものとする。</li> </ul>
附記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・L.A, L.B, L.C, Hは固有の設計図による。</li> </ul>
名称	階段廻り (その1)
縮尺	R-55-1

R-4.6

3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



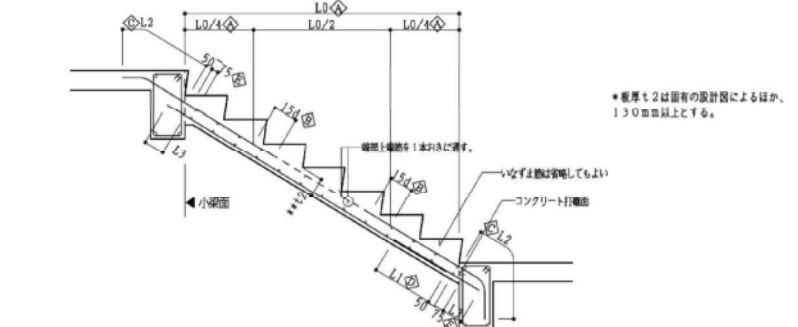
公共住宅標準詳細設計図集

仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物本体から突出する屋外階段の受壁及びエレベーター壁の壁筋は階段の外側に等形に配筋する。</li> <li>壁筋は、基礎天端から1m以内は、ピッチ計算による他、D10@100以下となるように配筋する。</li> <li>基礎・基礎は、ピッチ計算による他、D10以上の筋道を250以下となるように配筋する。</li> <li>階段補強筋は計算による他、壁筋は2-D19以上、コーナー部は4-D19以上の筋道を配筋する。</li> <li>壁筋部の配筋詳細については、R-51-1を参照する。</li> <li>段筋は基礎内で十分な拘束を行う。この時、基礎筋は厚さ以上とする。</li> </ul>
附記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋部の配筋 (いかなる筋等) はR-35, R-55-1による。</li> <li>・本図は、「ラーメン構造」"壁式構造"にて共通とする。</li> </ul>
名称	階段廻り (その3)
縮尺	R-55-3

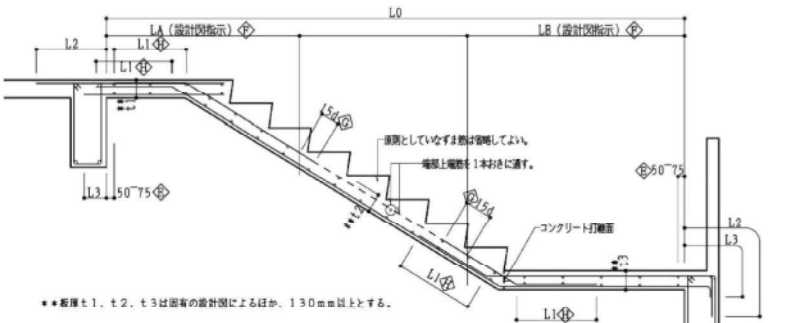
R-4.7

2) スラブ階段の配筋

(a) 階段の両端に小梁のある場合



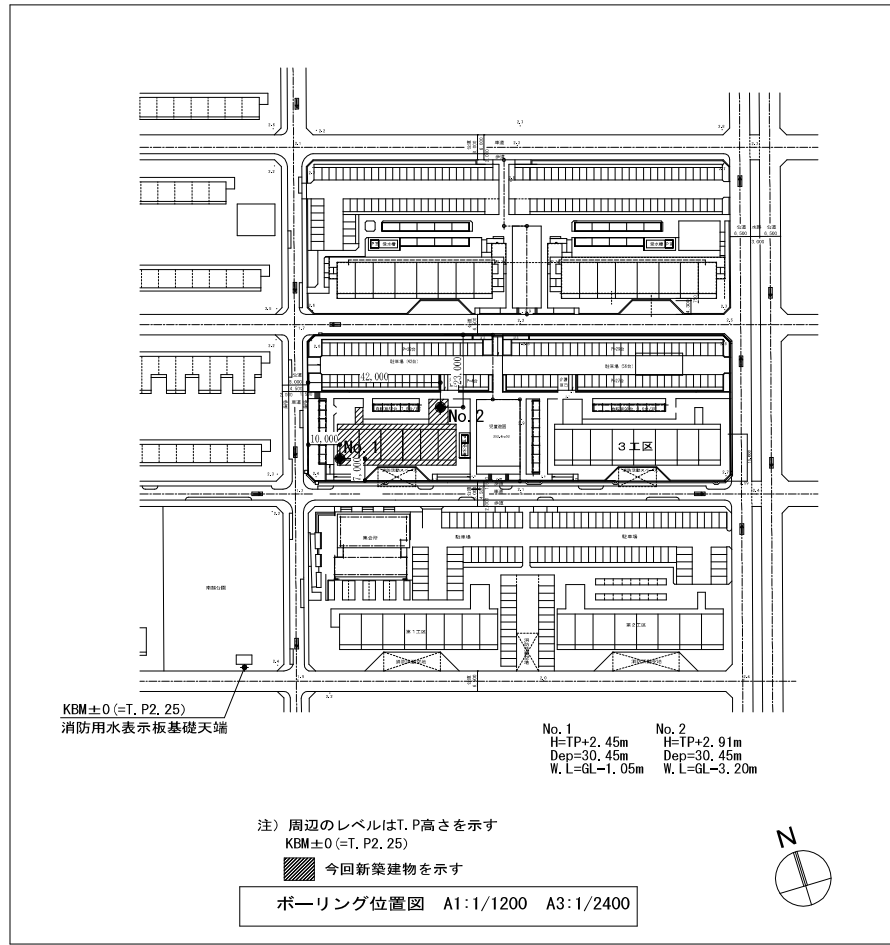
(b) 折曲りスラブ途中にある場合



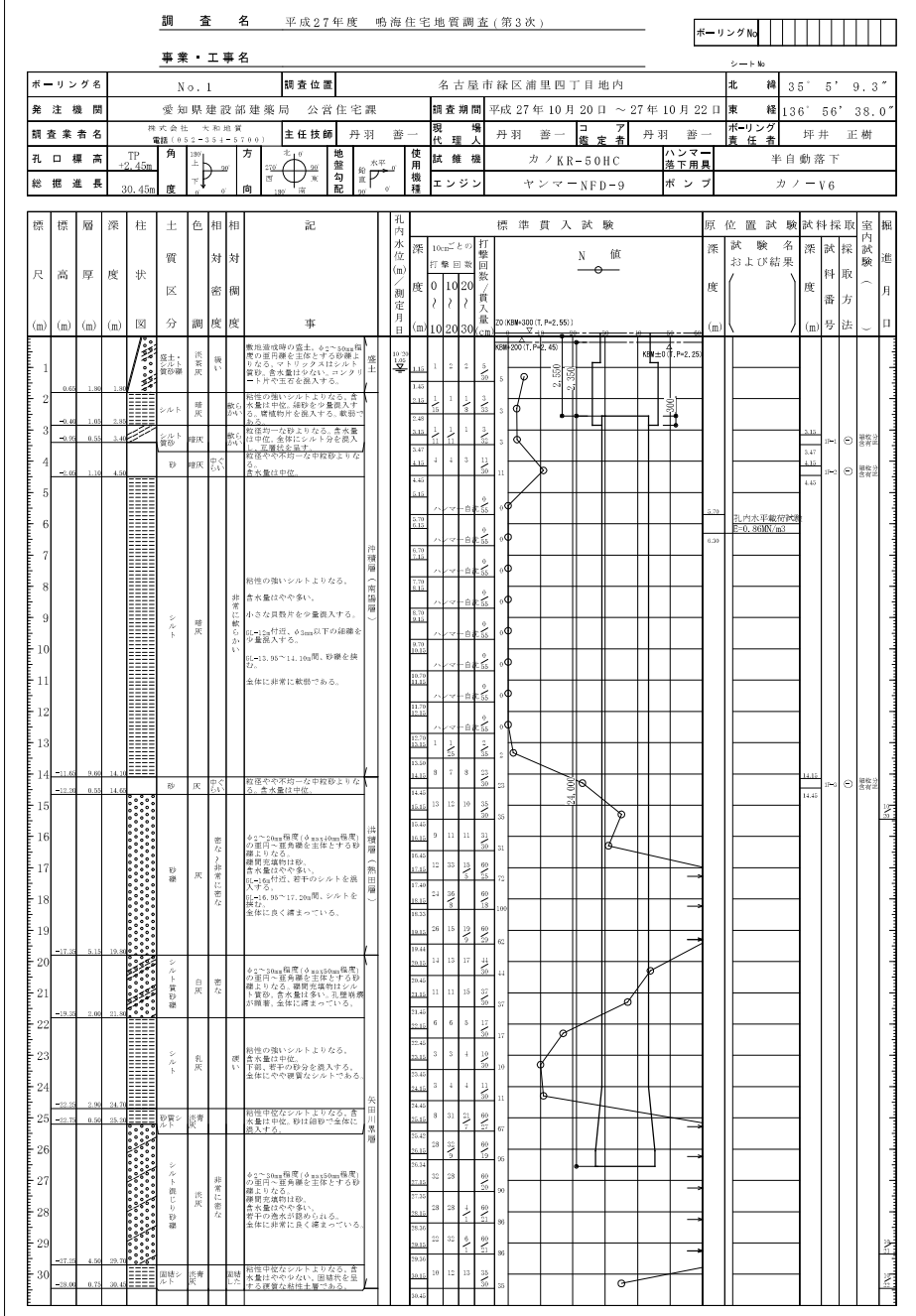
公共住宅標準詳細設計図集

仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>主筋の端部中央の区分は、階段内のリスパンL0の1/4の点とする。(通常のスラブと同様である。)</li> <li>端部トップ筋の余長は、L0/4の点より5dとする。</li> <li>端部上端筋は階段スラブ内、または端に十分定着させること。定着長はL2とする。</li> <li>端部下筋はL0/4の区間内とする。コンクリート打継ぎがあるので注意すること。</li> <li>配筋筋の端部位置を示す。配筋筋はこの位置から数付ける。</li> <li>主筋の端部中央の区分は設計図によるものとする。</li> <li>端部の上端筋の余長は区分より1.5dとする。</li> <li>折曲り点において上端筋、下端筋とも継手長さL1をもって、各スラブ鉄筋と連続させる。</li> </ul>
附記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋部の配筋 (いかなる筋等) はR-35, R-55-1による。</li> </ul>
名称	階段廻り (その2)
縮尺	R-55-2

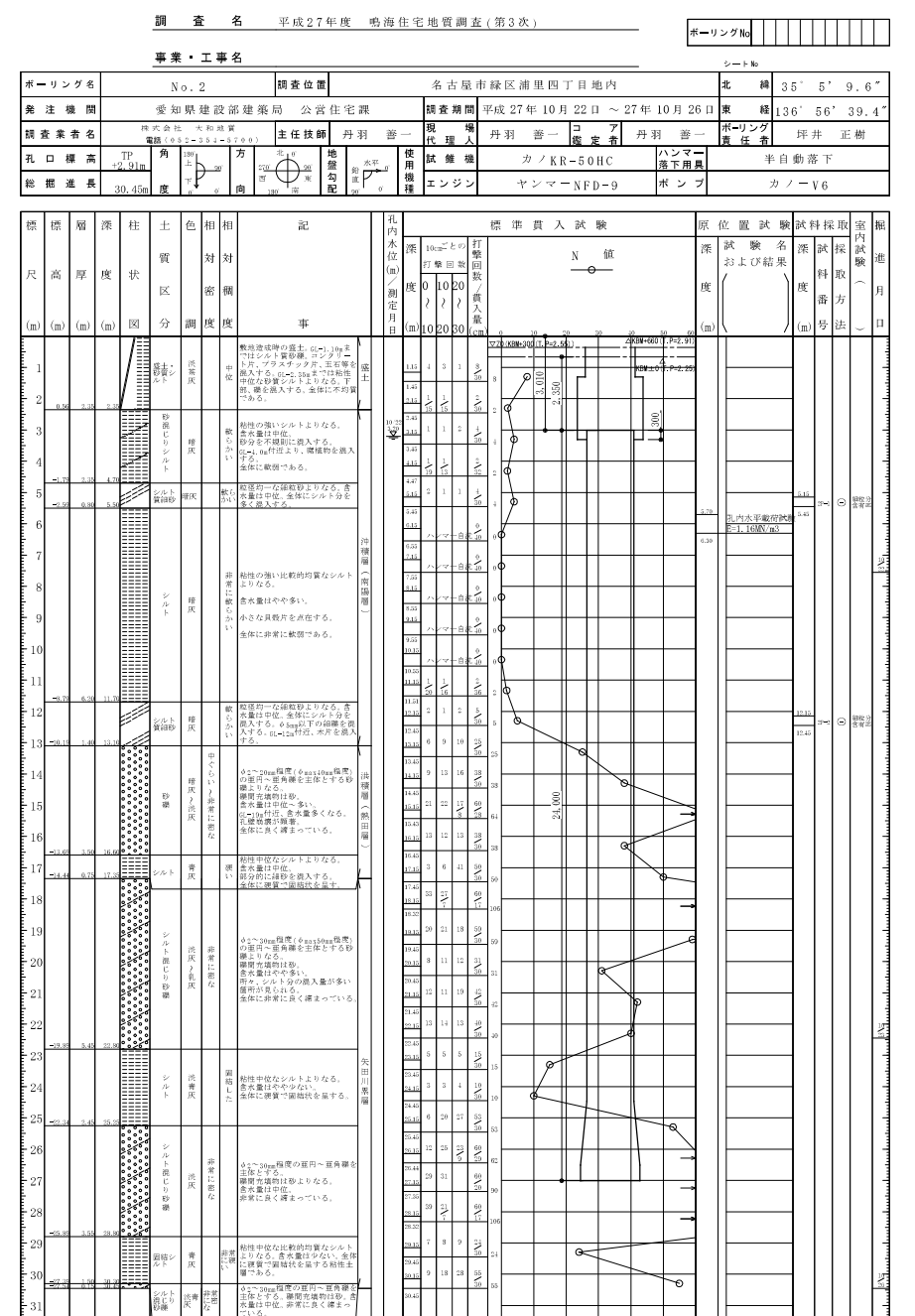
【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03072号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図 (9)		No. S-1
検 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課		

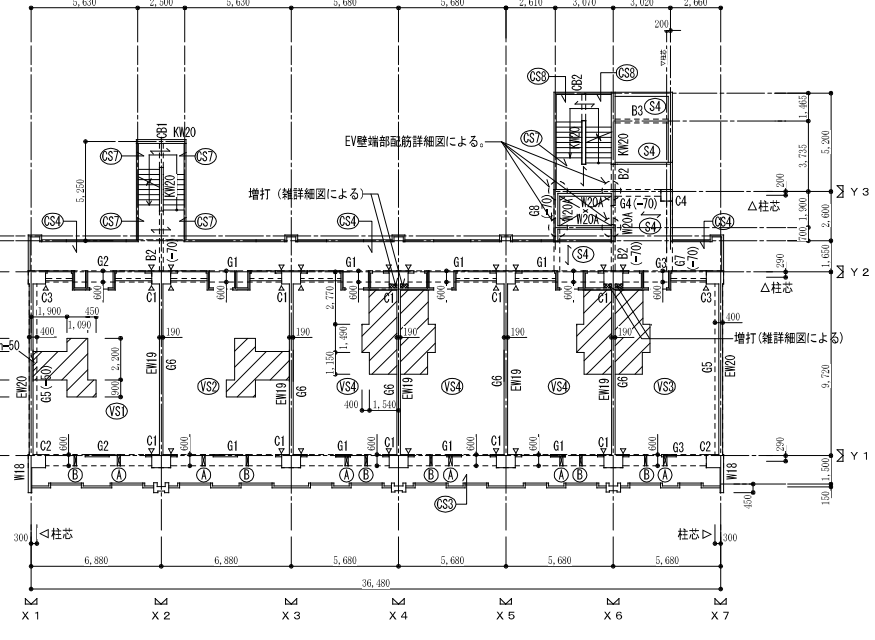
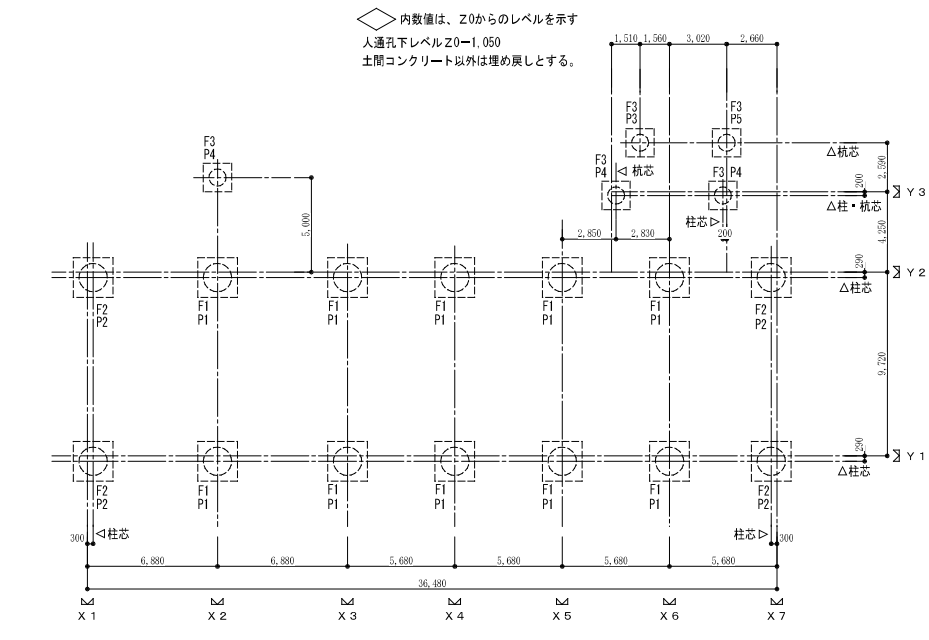
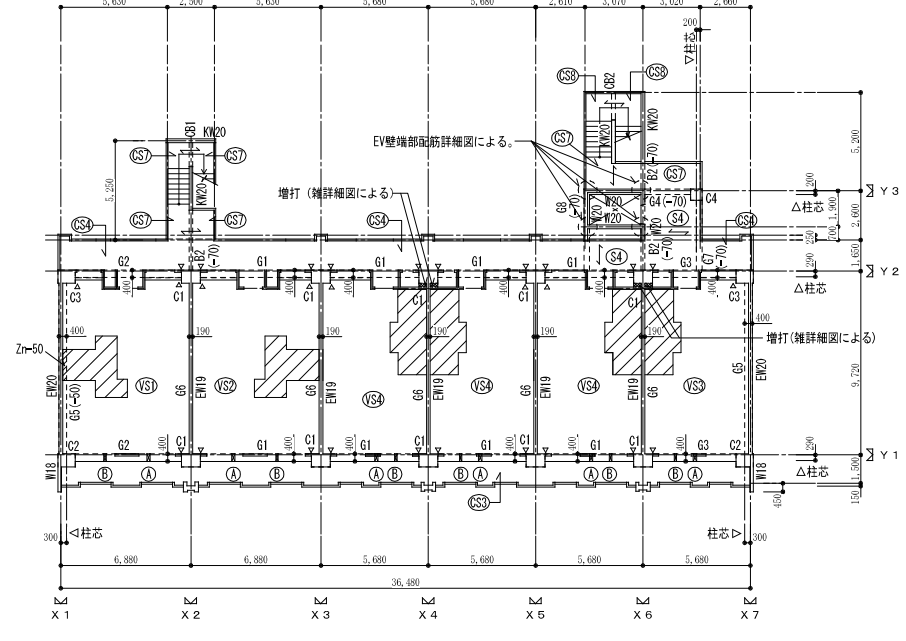
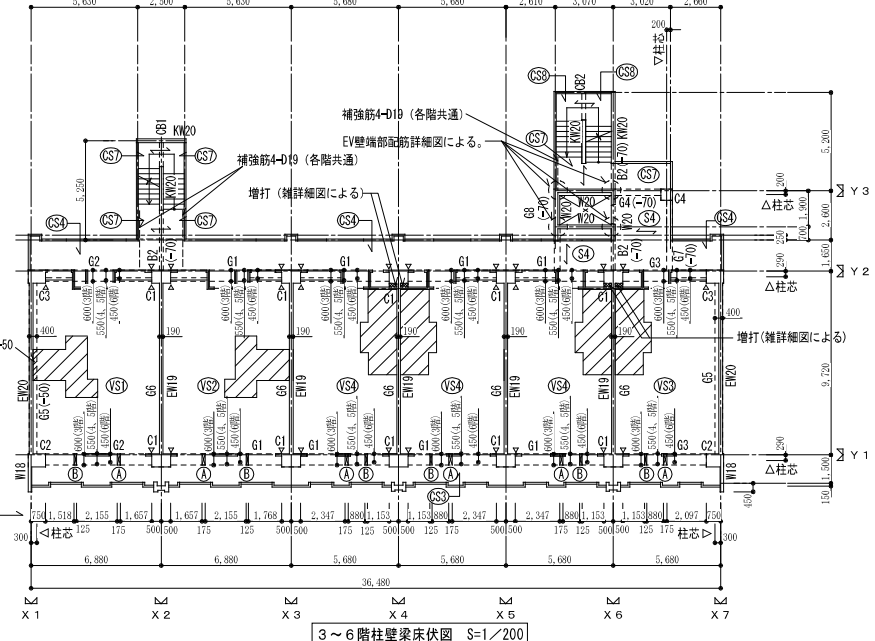
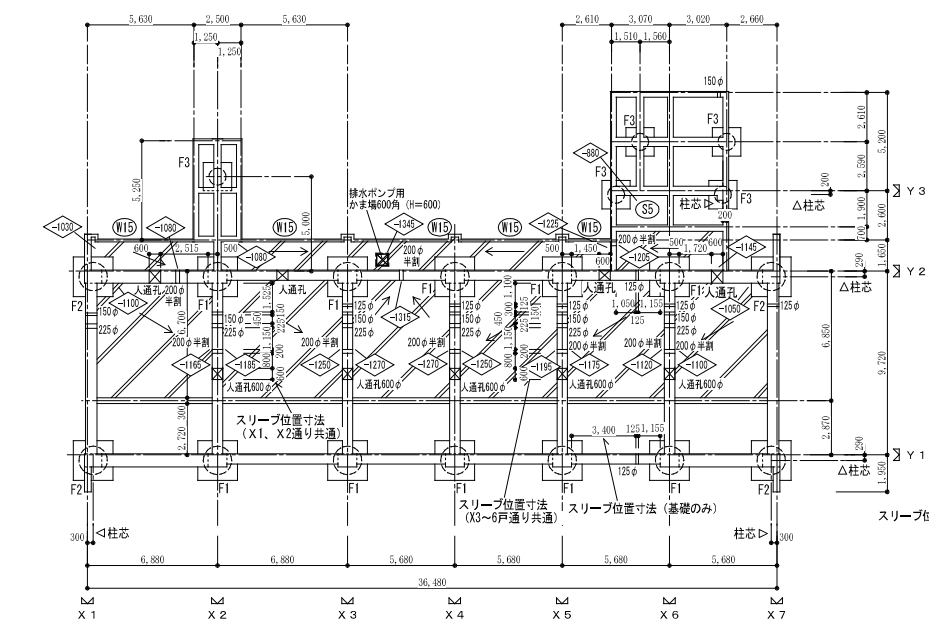
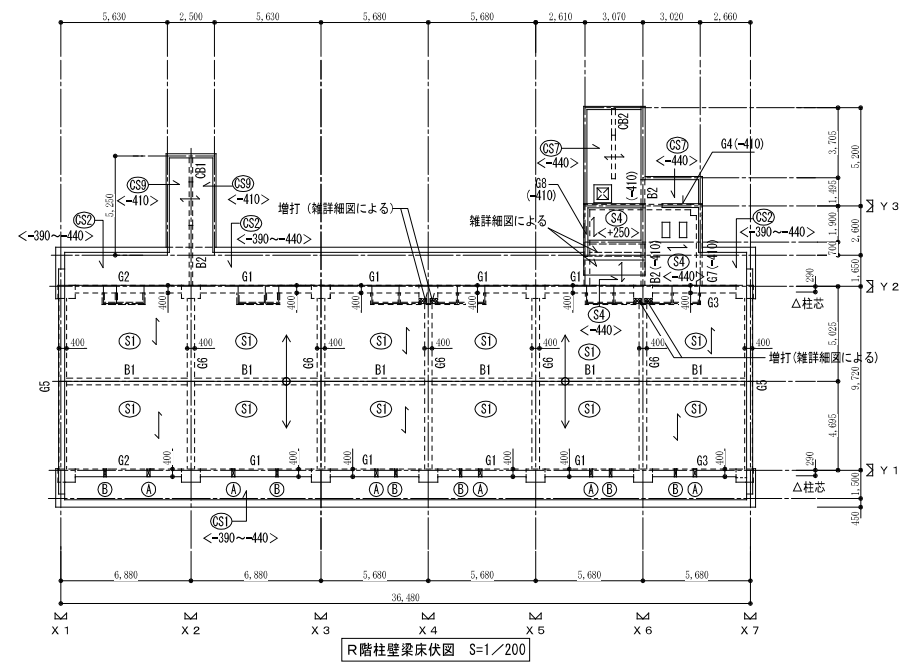
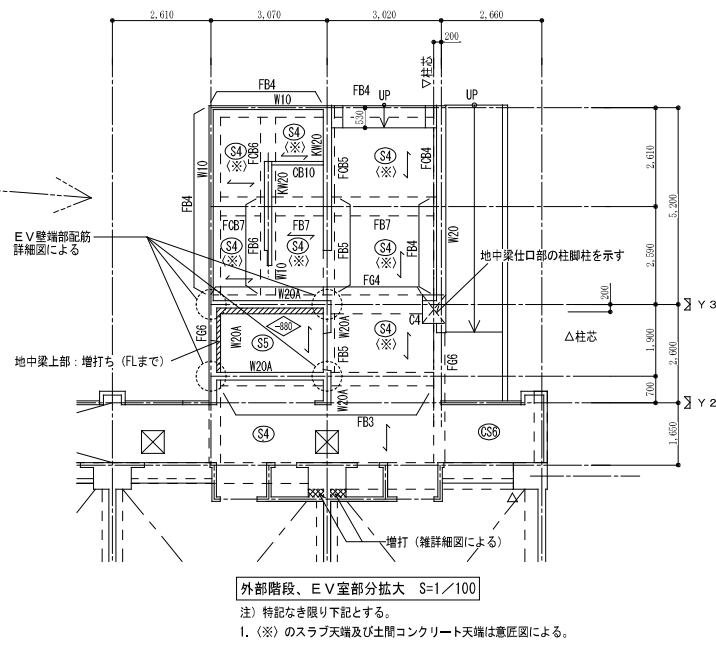
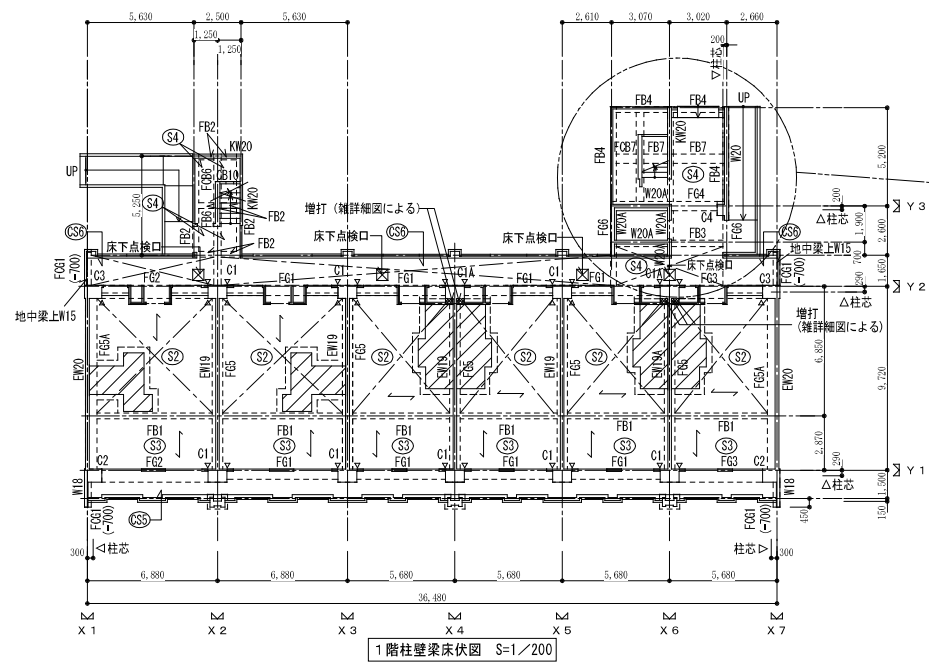


ボーリング柱状図



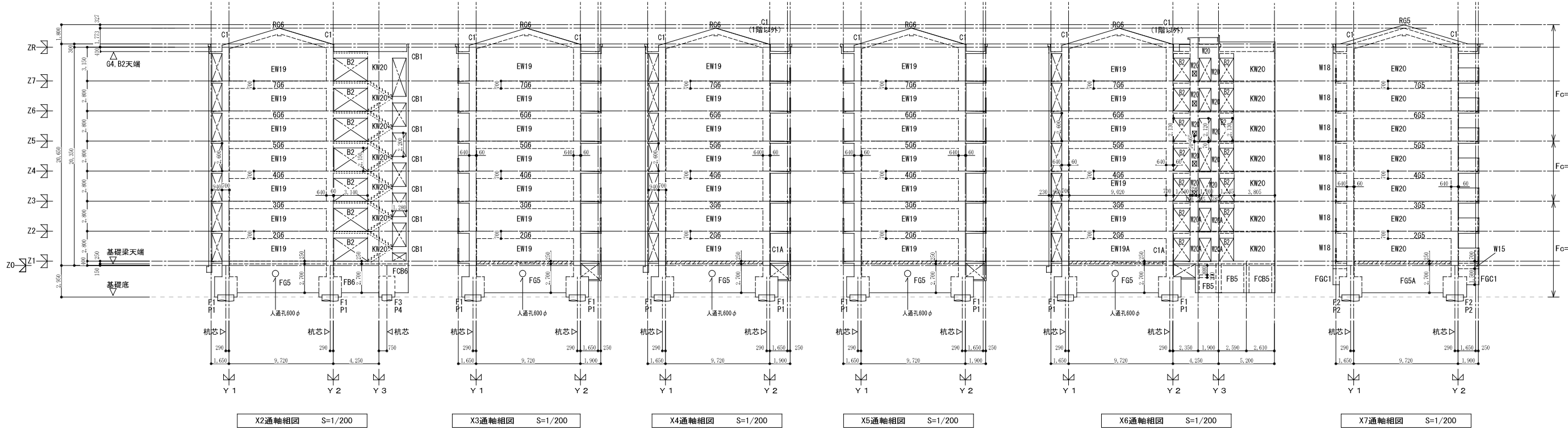
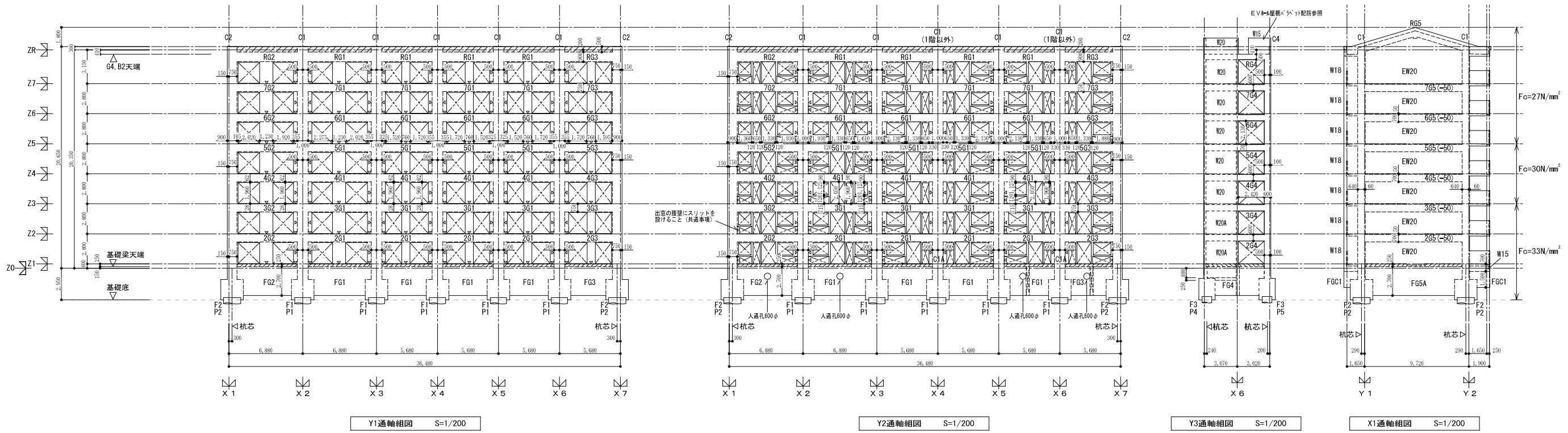
ボーリング柱状図






- 注) 特記なき限り下記とする。
- 杭天端はZ0-2650とする。
  - Z1=Z0+400とする。
  - スラブ天端はZ1±0とする。
  - < >内数値はスラブ天端レベル(Zn基準)を示す。
  - 斜線は、土間コンクリート範囲を示す。
  - 斜線は、スラブ天端Zn=100を示す。
  - 基礎梁天端はZ0+150とする。
  - ( )内数値は、梁天端レベル(Z基準)を示す。
  - 壁はW12とする。
  - ⊠は人通り(φ600)を示す。
  - ⊞はピット範囲を示す。
  - スラブ天端はZn±0とする。
  - RFスラブ天端は意匠図による。
  - ↑はスラブの主筋方向を示す。
  - 梁天端はZn±0とする。
  - RG1, RG2, RG3梁天端レベルはZn+200とする。
  - RG4, RG5, B1梁天端レベルは意匠図による。
  - 基準階階段室・EVホールにスラブ天端は意匠図による。
  - ⊙φ175, ⊕φ125はスリーブを示す。
  - ▽はスリット位置を示す。

【構造関係規定】に適合することを保証 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		伏岡 (杭・基礎・1階・2階・3~6階・7階・階)		縮尺 A1 1/200 A3 1/400
棟 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課		No. S-2

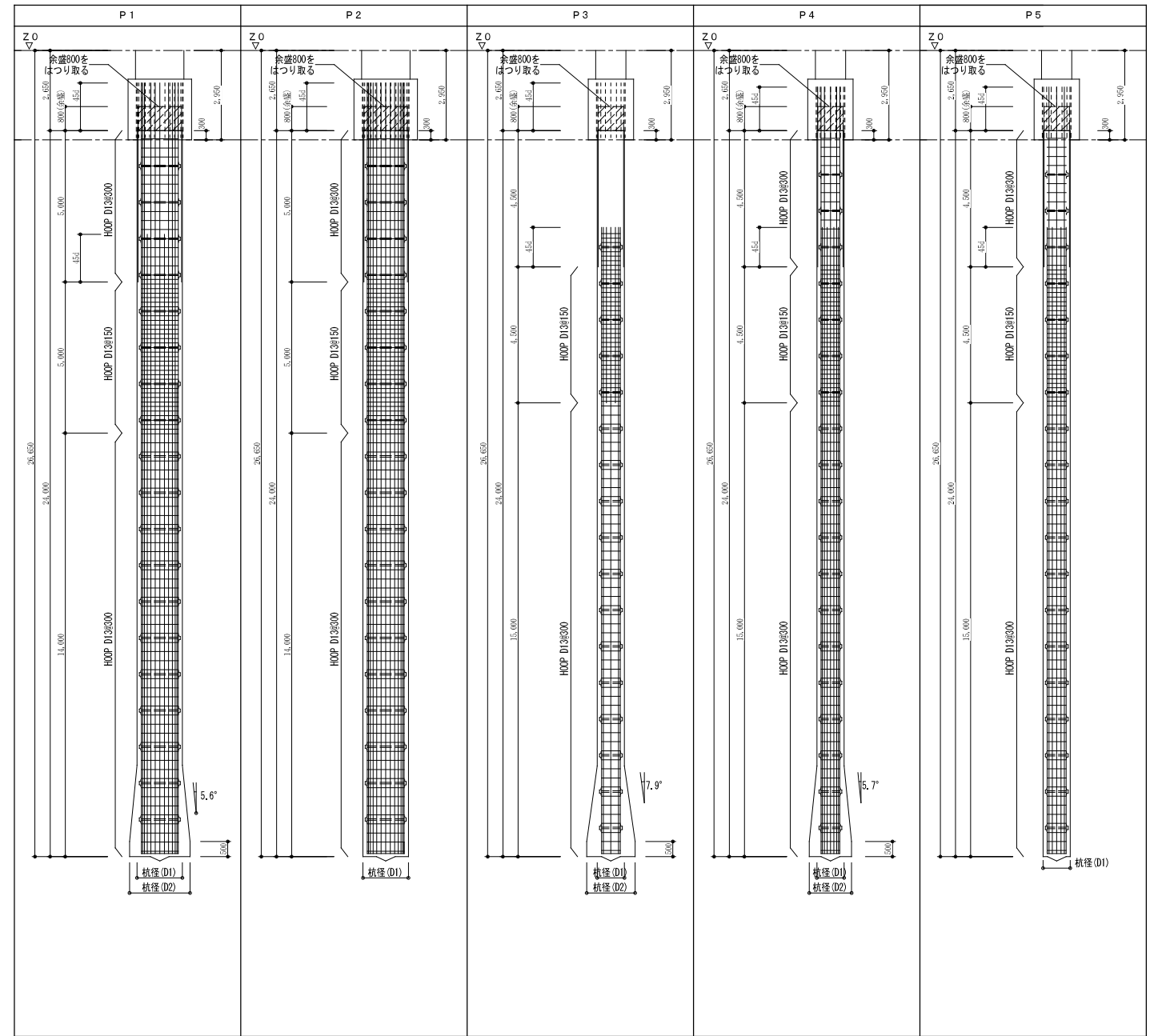


注) 特記なき限り下記とする。  
 1. トエ はスリット位置を示す。  
 2. RFスラブ天端は意匠図による。  
 3.  は、梁+250増打を示す。(ZRは梁+500増打を示す。)  
 4. 特記なき壁はW12とする。

構造関係規定に適合することを保証 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		軸組図		縮尺 A1 1/200 A3 1/400
棟 図	製 図	設計 H29年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課		

No. S-3

符号	P1	P2	P3	P4	P5
杭径D1	1,500	1,500	900	900	900
杭径D2	設計径: 1,900 施工径: 2,000	1,500	設計径: 1,500 施工径: 1,600	設計径: 1,200 施工径: 1,300	900
Df	2,950	2,950	2,950	2,950	2,950
L <sub>0</sub>	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
本数	10本	4本	1本	3本	1本
長期耐力	5,900 kN/本	4,410 kN/本	3,840 kN/本	2,780 kN/本	1,590 kN/本
短期耐力	12,150 kN/本	8,830 kN/本	7,830 kN/本	5,650 kN/本	3,180 kN/本
断面					
アンカー筋	外側28-D35 (内側18-D35)	外側28-D35 (内側24-D35)	16-D32	外側16-D32 (内側8-D32)	外側16-D32 (内側6-D32)
断面					
L1	5,000	5,000	4,500	4,500	4,500
鋼管	φ1500×9mm	φ1500×9mm	φ900×9mm	φ900×9mm	φ900×9mm
主筋	18-D35	24-D35	-	8-D32	6-D32
HOOP	○-D13@300	○-D13@300	-	○-D13@300	○-D13@300
断面					
L2	5,000	5,000	4,500	4,500	4,500
主筋	24-D35	24-D38	12-D29	16-D32	12-D29
HOOP	○-D13@150	○-D13@150	○-D13@150	○-D13@150	○-D13@150
断面					
L3	14,000	14,000	15,000	15,000	15,000
主筋	24-D35	24-D38	6-D29	16-D32	12-D29
HOOP	○-D13@300	○-D13@300	○-D13@300	○-D13@300	○-D13@300



場所打ちコンクリート杭地業特記仕様書 (アースドリル低圧工法 (OMR/B工法) (KCTB場所打鋼管コンクリート杭同等工法))

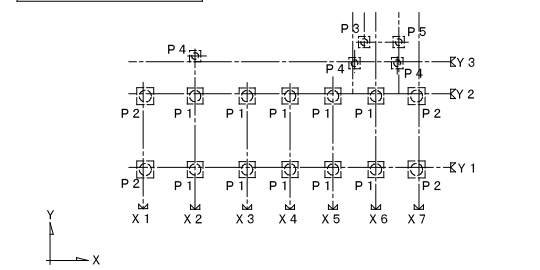
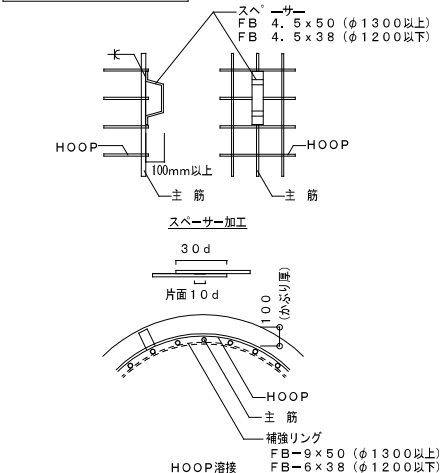
- 本仕様書に特記なき事項は、公共住宅建設工事共通仕様書及び日本建築学会の「場所打ちコンクリート杭のコンクリートに関する施工指針・同解説」により施工する。
- 杭先端部拡張及び杭頭鋼管巻きコンクリートについては、日本建築センターの評定を取得した工法とする。
- 着工前に施工計画書を提出し、監督員の承認を得ること。
- 杭のコンクリートは  $F_c = 30 \text{ N/mm}^2$  (所要スランプ18cm)、水セメント比5.5%以下、単位セメント量  $340 \text{ kg/m}^3$  以上とする。
- 杭の鉄筋およびアンカー筋は、特記なき限りSD295A (D13~D16)、SD345 (D19~D25)、SD390 (D29~D38) とする。
- 杭の鋼管巻きコンクリートの材質は、特記なき限りJISA5525「鋼管い」SKK490-1Rとする。
- 杭頭鋼管巻きコンクリート杭の鋼管は、内面全長突起とする。(KCTB同等品) 鋼管および突起部の材質はJISA5525「鋼管い」SKK490-1Rに規定されたものとする。
- 鉄筋のかぶり厚は100mm以上とする。
- 主筋の重ね継手長さは、4.5d以上とし、3ヶ所以上を#10の鉄線にて結束する。
- フープは円形加工とし、重ね継手を溶接する。溶接長さは片側の場合10d以上、両面の場合5d以上とする。組み立ては主筋との交点を径0.8mm以上の鉄線にて結束する。
- 補強リングは、1節につき3箇所程度 (@3.0m程度) 入れ、主筋の全交点に堅固に溶接する。溶接長さは補強材の幅とする。補強リングの材質・サイズは以下の表による。

補	要	補強リングの材質・サイズ
杭の軸径が1.2m以下の場合	鋼板	SS400 6.0×38 (mm)
杭の軸径が1.2mを超える場合	鋼板	SS400 9.0×50 (mm)

2. 溶接はアーク手溶接または半自動溶接とし、主筋への点溶接、アークストライク等を行ってはならない。
3. スペーサー (型) は、同一深さの位置に4ヶ所以上 (杭径1500φ以上は6ヶ所以上) 取付ける。ピッチは補強リングと同じとする。スペーサーの材質・サイズは以下の表による。

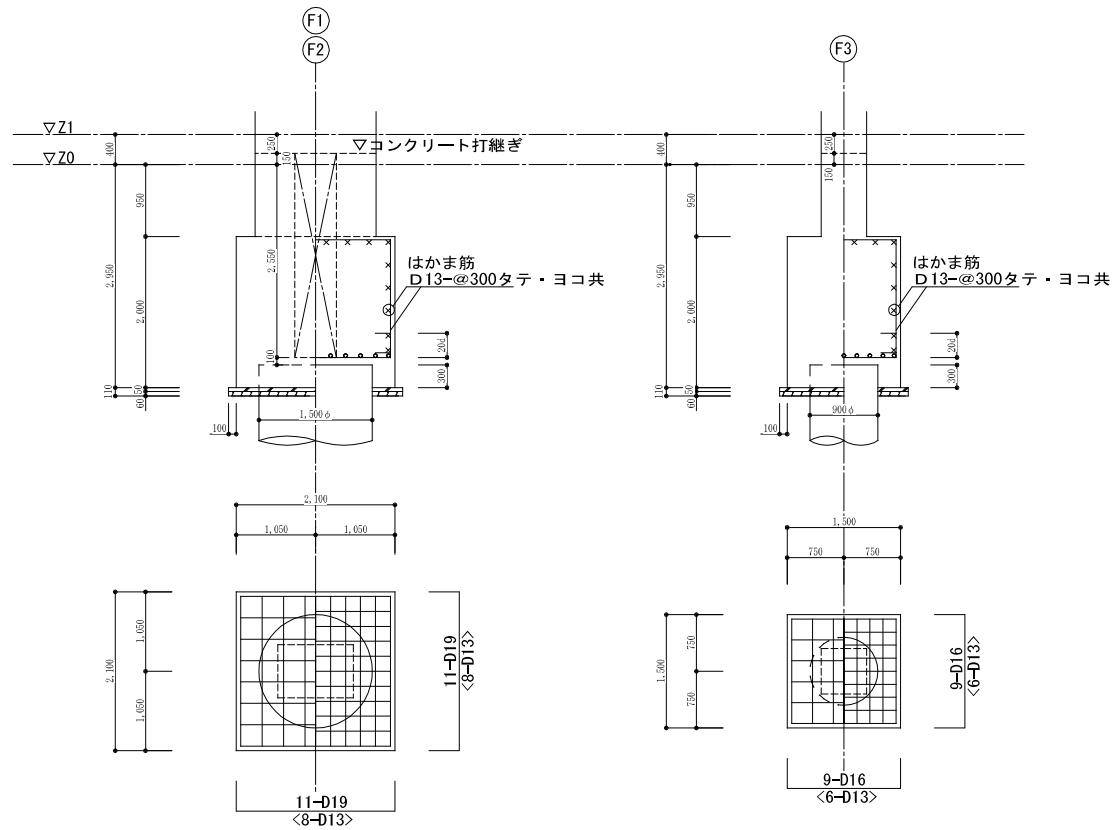
補	要	スペーサーの材質・サイズ
杭の軸径が1.2m以下の場合	鋼板	SS400 4.5×38 (mm)
杭の軸径が1.2mを超える場合	鋼板	SS400 4.5×50 (mm)

4. 杭頭鋼管巻きコンクリート杭のアンカー筋は、鋼管に両面5d以上溶接する。
5. コンクリート打込み前先立ち、スライムの除去を行い杭に対して有害なスライムが無い事を確認する。
6. 杭頭部のコンクリートの余量りは80mm以上とし、杭鉄筋の基礎へのアンカー部にコンクリートが付着しないように養生する。
7. 杭の孔壁断面測定は、全数の10%以上とし、測定箇所は監督長と協議する。孔壁測定器は光電製作所製品又は同等品とする。
8. 施工精度は、水平精度 (芯ずれ) で100mm以内、鉛直精度で1/100以内とし、杭径の精度・設計図の寸法以上とする。
9. 施工にあたっては、使用機器の点検整備を実施するとともに、作業中の事故等の発生を未然に防止するため、安全衛生管理を実施する。
10. 施工に際しては、騒音、振動、水質汚濁、汚泥等の廃棄物に関して、関係法令を遵守する。
11. セメントは高炉セメントB種とし、高炉スラグの混合比は40%以上かつ45%以下とする。
12. 支持層への到達を確認し、掘削終了とする。



株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築設計 (第4工区)		図面番号
【構造関係規定に適合することを確認】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦		一級建築士登録番号 第191553号 水野 豊秋		No.S-4
検	製	設計	杭リスト	縮尺 A1 1/100, 1/40 A3 1/200, 1/80
図	図	H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

基礎詳細図 1/50 < >は上端筋を示す。



基礎梁リスト 1/50 ・特記なき巾止め筋はD10@1000とする。・特記なき限り柱梁接合部の水平投影長さは0.75D以上とする。

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG5A	FG6	FCG1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
b × D	550 × 2700	700 × 2700	700 × 2700	500 × 2700	550 × 2700	600 × 2700	300 × 2700	350 × 1500
上端筋	10-D35	17-D35	17-D35	8-D25	15-D35	15-D35	6-D25	3-D22
下端筋	10-D35	17-D35	17-D35	10-D25	15-D35	15-D35	6-D25	3-D22
STP	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200
腹筋	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13	8-D13

基礎小梁リスト 1/50 特記なき巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FB1	FB2	FB3	FB4・FCB4	FB5・FCB5	FB6・FCB6	FB7・FCB7
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
b × D	300 × 1600	300 × 1350	350 × 2700	300 × 2700	300 × 2700	400 × 2700	500 × 2700
上端筋	3-D22	3-D22	3-D25	6-D25	6-D25	8-D29	5-D29
下端筋	3-D22	3-D22	6-D25	6-D25	3-D25	4-D29	9-D29
STP	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200
腹筋	8-D13	6-D13	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13	14-D13

構造特記				
コンクリート	躯体	5F柱~RF梁	$F_c = 27N/mm^2$ (設計強度)	水セメント比: 50%以下 スランブ: JASS5による コンクリート中の単位水量: 185kg/m以下 コンクリート中の空気量: 4%~6%
		3F柱~5F梁	$F_c = 30N/mm^2$ (設計強度)	
		1F柱~3F梁	$F_c = 33N/mm^2$ (設計強度)	
		基礎	$F_c = 33N/mm^2$ (設計強度)	
		捨て	$F_c = 18N/mm^2$ (設計強度)	
鉄筋	D16以下	SD295A	重ね継手 (JIS規格品)	※せん断補強筋の一部をD13(SD345)とする。
	D19以上	SD345	ガス圧接 (JIS規格品)	
	D29以上	SD390	ガス圧接 (JIS規格品)	

鉄筋の最小かぶり厚さ			
土に接しない部分	耐力壁以外の壁・床	屋内	20
		屋外	30
	耐力壁柱・梁	屋内	30
		屋外	40
土に接する部分	柱・梁・床・基礎立上がり部分	40	
	基礎(立上がり部分を除く)	60	
※設計かぶり厚さは上配+10mmとする。			
(設計かぶり厚さ=鉄筋加工寸法(スプーラー管理値)とする。)			

- コンクリート施工計画
- 打込み、締め固め
  - 打継ぎ部処理方法
  - 養生方法
  - 型わく及び支柱の除去
- 構造部材等の耐久性 (基準法適合)
- 構造部材の耐久性が令第37条に適合
  - コンクリートの材料が令第72条に適合
  - コンクリートの強度が令第74条に適合
  - コンクリートの養生が令第75条に適合
  - 鉄筋のかぶり厚さが令第79条に適合
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては建設告示第1388号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

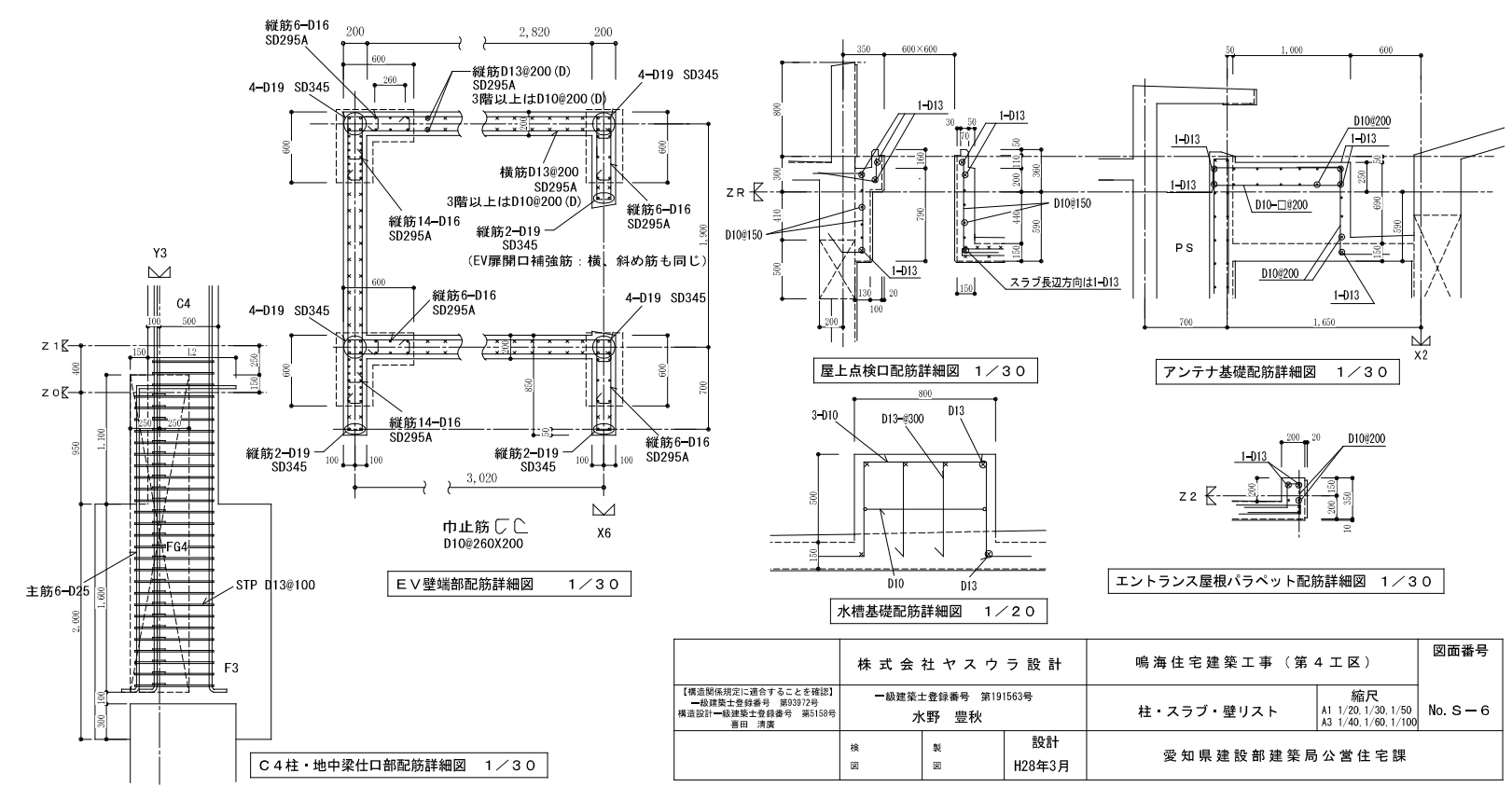
【構造関係諸定に適合することを確認】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		基礎・基礎梁リスト		縮尺 A1 1/50 A3 1/100 No. S-5
検 査	製 図	設計 H28年3月		愛知県建設部建築局公営住宅課	

階	符号	C 1	C 1A	C 2	C 3	C 4
		7階 (Fc27)				
	断面					
	主筋	8-D25 + 8-D16		8-D25 + 6-D16	8-D25 + 6-D16	12-D22
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
6階 (Fc27)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16		8-D25 + 6-D16	8-D25 + 6-D16	12-D22
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
5階 (Fc27)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16		10-D25 + 6-D16	10-D25 + 6-D16	12-D22
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
4階 (Fc30)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16		10-D25 + 6-D16	10-D25 + 6-D16	12-D22
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
3階 (Fc30)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16		10-D25 + 6-D16	10-D25 + 6-D16	12-D22
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
2階 (Fc33)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16	12-D25 + 8-D16	16-D25 + 6-D16	16-D25 + 6-D16	12-D25
	フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D10@100
1階 (Fc33)	断面					
	主筋	12-D25 + 8-D16	12-D25 + 8-D16	16-D25 + 6-D16	16-D25 + 6-D16	14-D25   18-D25
	フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
						柱頭 柱脚 寄筋を示す
						地中梁仕口部 寄筋を示す
						主筋 24-D25 フープ □-D13@100

符号	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
S1	150	上端筋 下端筋	D13-@200 D10-D13-@200	← ←	D10-D13-@200 D10-D13-@200	← ←	
S2	200	上端筋 下端筋	D13-@200 D10-D13-@200	← ←	D13-@200 D10-D13-@200	← ←	
S3	150	上端筋 下端筋	D10-D13-@200 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
S4	150	上端筋 下端筋	D10-D13-@200 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
S5	250	上端筋 下端筋	D13-@200 D13-@200	← ←	D13-@200 D13-@200	← ←	
CS1	150~200	上端筋 下端筋	D13-@100 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS2	150~200	上端筋 下端筋	D13-@75 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS3	130~200	上端筋 下端筋	D13-@150 D10-@150	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS4	130~200	上端筋 下端筋	D13-@100 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS5	130~200	上端筋 下端筋	D13-@150 D10-@150	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS6	130~200	上端筋 下端筋	D13-D16-@100 D10-@100	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS7	150	上端筋 下端筋	D13-@150 D10-@150	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS8	150	上端筋 下端筋	D13-@100 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	
CS9	150	上端筋 下端筋	D13-@200 D10-@200	← ←	D10-@200 D10-@200	← ←	

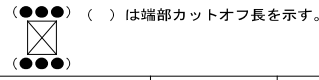
・特記なき限り、ダブル配筋は縦筋を内側とする。配筋は標準配筋図に準ずること。  
 ・EW19, EW19A, EW20については横筋を巾止め筋にて拘束する。  
 ・W18, W20, KW20については縦筋を巾止め筋にて拘束する。

符号	W10-W12	W18	EW19	EW19A	EW20	W20	KW20	W20A (1・2階)
厚	100-120	180	190	190	200	200	200	200
水平断面		補強筋2-D13 垂直 水平				補強筋2-D13 垂直 水平	補強筋2-D19 巾止め筋 垂直 水平	補強筋2-D19 巾止め筋 垂直 水平
縦筋	D10-@200ツグ	D10-@200ツグ	D10-@200ツグ	D10-@200ツグ	D10-@150ツグ	D10-@150ツグ	D13-@200ツグ	D13-@200ツグ
横筋	D10-@200ツグ	D10-@200ツグ	D10-@200ツグ	D10-@100ツグ	D10-@150ツグ	D10-@150ツグ	D13-@200ツグ	D13-@200ツグ
巾止め筋		D10-@1000以下	D10-@750以下	D10-@750以下	D10-@750以下	D10-@1000以下	D10-@1000以下	D10-@1000以下
開口補強	縦筋	1-D13	2-D13			2-D13		
	横筋	1-D13						
	斜め筋	1-D13						



大梁リスト S=1/50

共通事項  
大梁主筋は柱径の75%以上を水平定着長とし、下端筋は上向き定着とする。  
腹筋2-D10 (h≧900は4-D10) 巾止め筋D10@1000以内  
ねじれ補強筋の指定がある場合は、腹筋の指定よりねじれ補強筋を優先する。



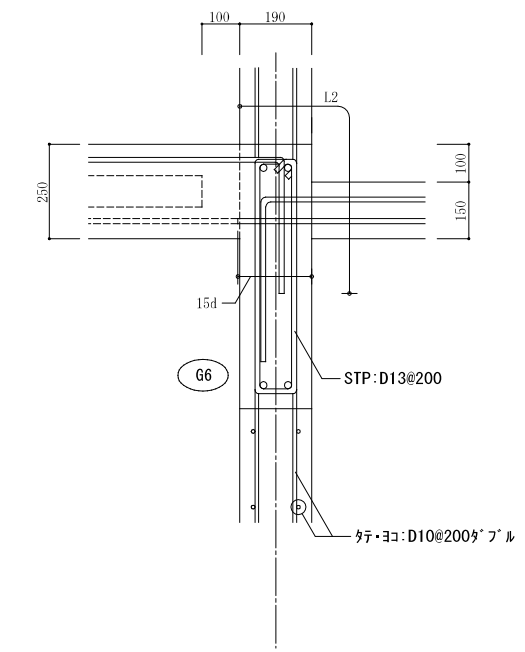
階	符号	G1		G2			G3		G4	G5	G6	G7	G8
		両端	中央	外端部	中央	内端部	内端部	中央	外端部	全断面	全断面	全断面	全断面
R階 (Fc27)	断面												
	上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D25	3-D25	3-D19	3-D19
	下端筋	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D25	3-D25	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@200		□-D1 3@200			□-D1 3@200		□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
7階 (Fc27)	断面												
	上端筋	5-D25	4-D25	6-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D22	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
6階 (Fc27)	断面												
	上端筋	6-D29	4-D29	6-D29	4-D29	6-D29	5-D29	5-D29	3-D22	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	3-D22	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
5階 (Fc30)	断面												
	上端筋	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	7-D29	7-D29	4-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	5-D29	5-D29	6-D29	5-D29	5-D29	5-D29	6-D29	4-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@100	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
4階 (Fc30)	断面												
	上端筋	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	7-D29	7-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	6-D29	5-D29	7-D29	5-D29	6-D29	6-D29	7-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@100	□-D1 3@100	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
3階 (Fc33)	断面												
	上端筋	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	8-D29	8-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	7-D29	7-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@100	□-D1 3@100	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200
2階 (Fc33)	断面												
	上端筋	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	8-D29	8-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	7-D29	7-D29	5-D25	3-D25	2-D19	3-D19	3-D19
	スターラップ	□-D1 3@100		□-D1 3@100			□-D1 3@100		□-D1 3@100	□-D1 3@100	□-D1 3@200	□-D1 3@200	□-D1 3@200

小梁・片持梁リスト 1/50

特記なき巾止め筋はD10-@1000以下とする。

符号	B1		B2	B3
	他端、中央	X2, X3端	全断面	全断面
位置				
断面				
b x D	350 x 650		200 x 600	200 x 500
上端筋	3-D22	4-D22	4-D19	4-D19
下端筋	3-D22	3-D22	4-D19	4-D19
STP	□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2-D10		2-D10	
符号	CB1		CB2	
位置	全断面		元端	先端
断面				
b x D	200 x 600		200 x 600	200 x 400
上端筋	4-D16		4-D16	4-D16
下端筋	4-D16		4-D16	4-D16
STP	□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10

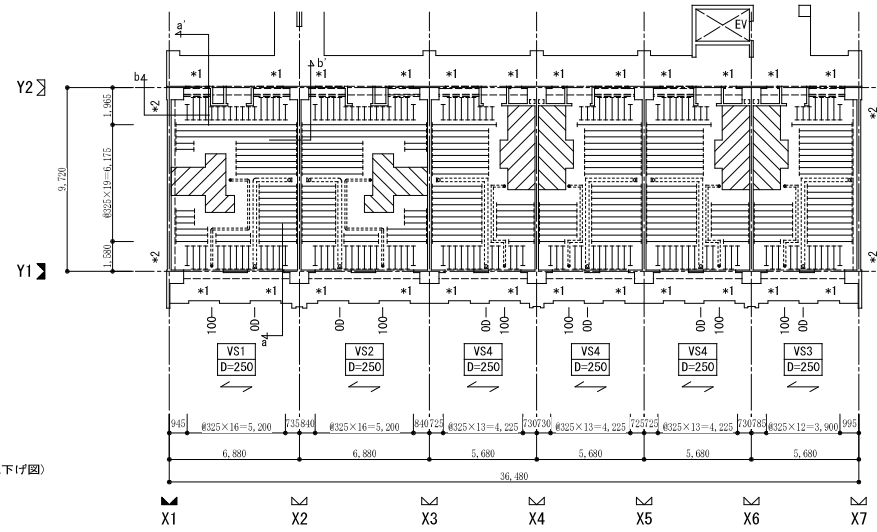
X3通りスラブ下がり部の配筋詳細図 1/10



【構造関係図に適合することを確認】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		梁・小梁リスト		縮尺 A1 1/10, 1/50 A3 1/20, 1/100
検 査	製 図	設 計	H28年3月		
				愛知県建設部建築局公営住宅課	







2~7階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下伏図)

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
    - ← は主筋方向を示す。
    - はパイプ径φ-200x100を示す。
  - 中空スラブ天端レベル
    - Zn ± 0 を示す。(D=250: φ=200x100)
    - ▨ Zn - 100 を示す。(t=150)
  - 中空スラブ補強
    - +1, +2 は周辺受梁ねじれ補強位置を示す。
  - その他
    - 100: 硬質塩化ビニル管(薄肉) φ=100
    - OD: オーバルダクト φ=190x100
- 中空スラブ断面配筋  
a-a' 主筋方向断面 b-b' 配筋方向断面 位置を示す。

中空スラブ リスト S=1/30		(註) 1. スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書 8 を参照。																																	
記号	パイプ	VS1						VS2						VS3						VS4															
方向		主筋方向			配筋方向			主筋方向			配筋方向			主筋方向			配筋方向			主筋方向			配筋方向												
位置		外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央											
断面																																			
上端筋		2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	2-D13	1-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13
下端筋		2-D13	2-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D10+1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	

中空スラブ 施工断面図

詳細リスト Dはスラブ厚、Pはパイプピッチを示す。

符号	D	P	パイプ径	備考
VS1~VS4	250	325	200x100	

(註) 1. パイプは、任意長さとする。  
2. 図はウエッジによる受台固定を示す。但し、監理者の承諾を得た固定方法の変更は可能とする。  
3. 鉄筋の外かぶり、設計かぶり厚さ(施工誤差10mm含む)を示す。  
4. スペース筋で鉄筋かぶりの確保が困難な場合は、止め筋等により確保すること。

中空スラブ 配筋範囲

(註) 1. ← は主筋方向を示す。  
2. ◆ は配筋区分位置を示す。

中空スラブ 欠込み部 補強要領 (Zn-100: t=150)

【主筋方向】  
【配筋方向】

欠込み部配筋リスト

位置	Zn-100
上端筋 主筋方向	D13 #150
配筋方向	D13 #200
補強筋 (上下筋共)	2-D13

詳細リスト 単位(mm)

スラブ符号	VS1~VS4
一般部スラブ厚	D 250
パイプ	φ 200x100
欠込み寸法	h 100
残りスラブ厚	t 150
パイプカット範囲	L 550

(註) 1. 補強筋の定着は欠込み縁より40dとする。  
2. VSスラブ筋(上筋)は欠込み部縁まで配置すること。  
3. VSスラブ筋は中空スラブリストを参照。  
4. 配筋方向のパイプ変位は、一例とする。

中空スラブ 周辺受梁ねじれ 補強要領

(註) 1. 補強位置は中空スラブリストを参照。  
2. ねじれ補強筋の定着は柱内に35dもしくは通し筋とする。

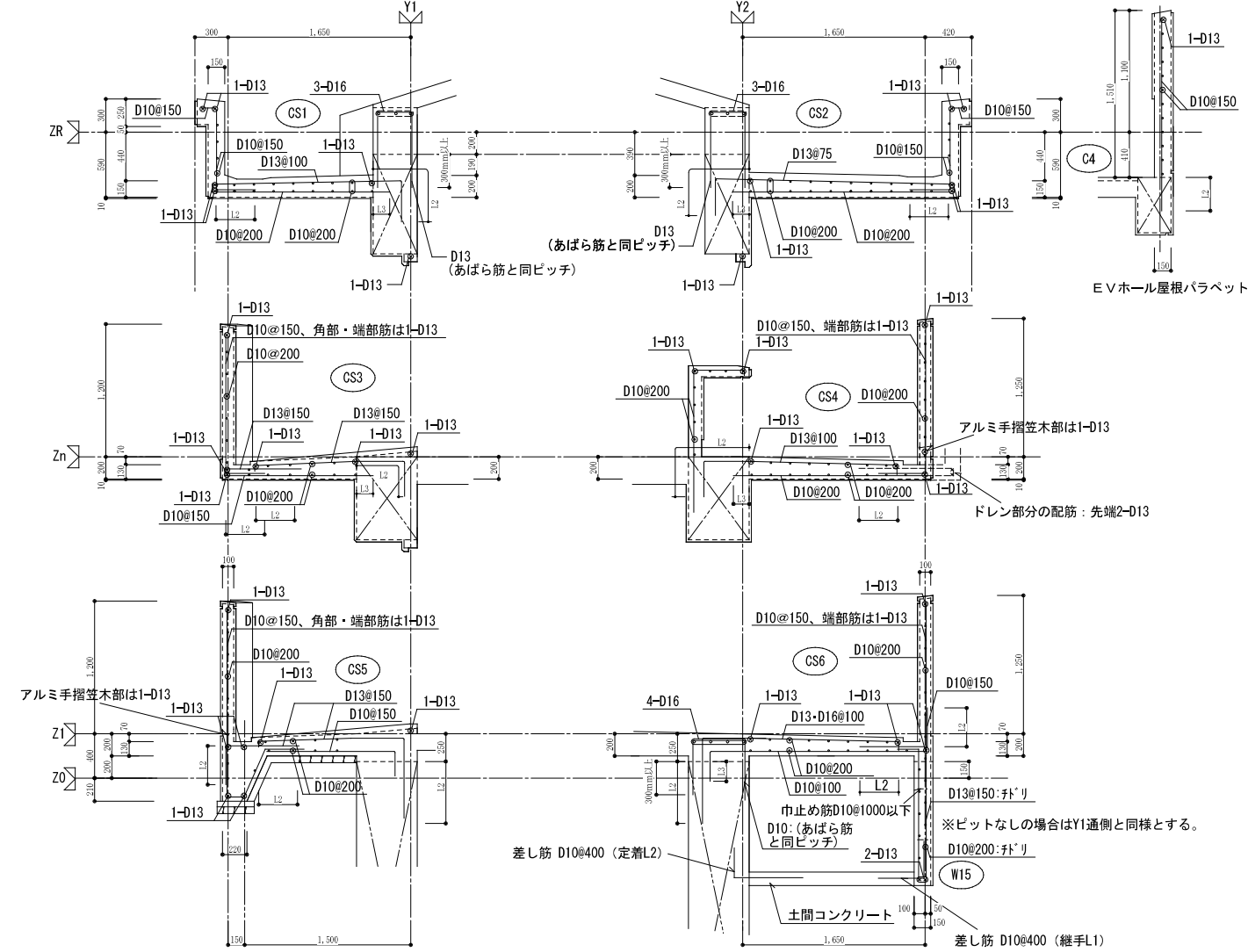
VS1 断面配筋図 S=1/30 (註) 特記なき限り ワインディングパイプ φ=200x100 を示す。

a-a' 断面図 (主筋方向)  
b-b' 断面図 (配筋方向)

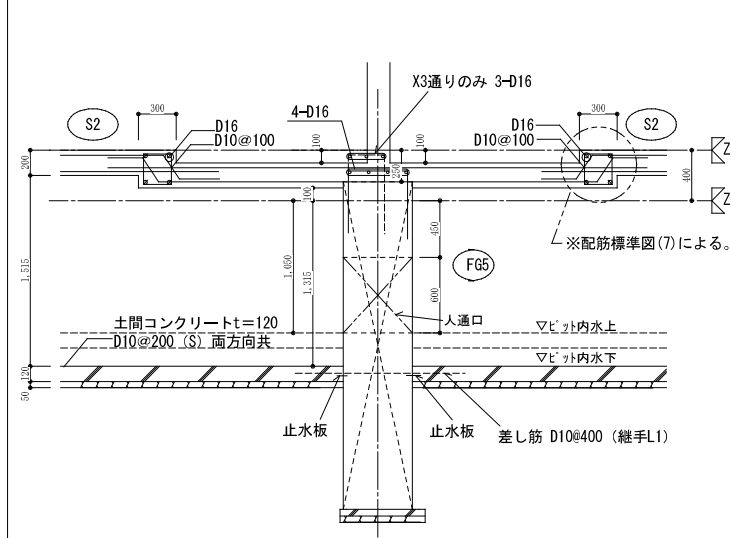
(註) 1. 断面位置は、2~7階中空スラブリストを参照。  
2. スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書 8 を参照。  
3. 梁筋配筋については、中空スラブ標準仕様書 13 を参照とし必要に応じて配筋を配置する。

株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
【構造関係設計に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦		一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		縮尺 A1 1/30, 1/200 A3 1/60, 1/400
検 査	製 図	設 計	No. S-9	
		H28年3月		愛知県建設部建築局公営住宅課

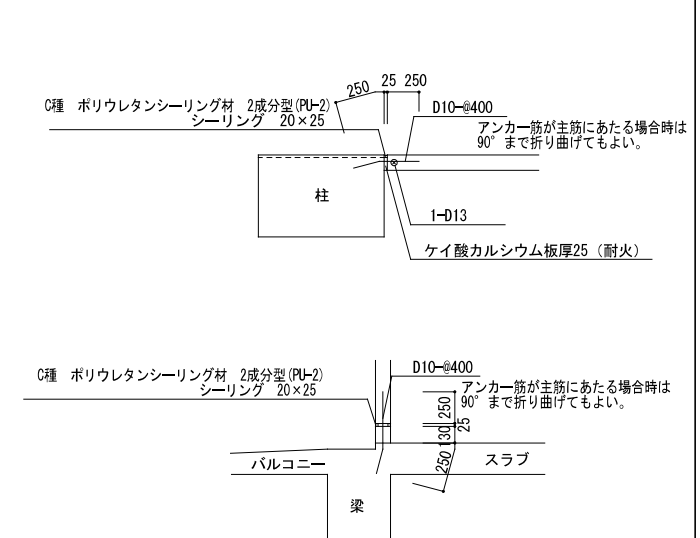
片持ちスラブ 配筋詳細 1/30



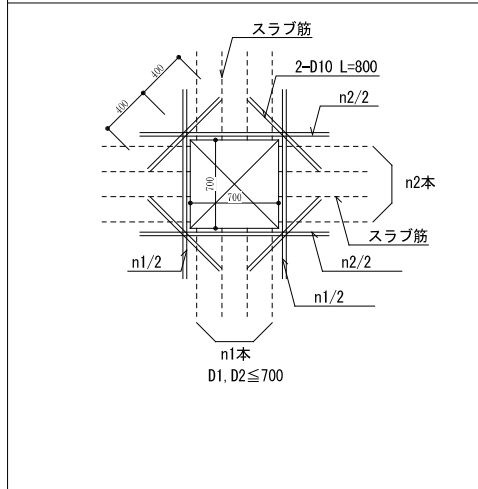
ピット 配筋詳細



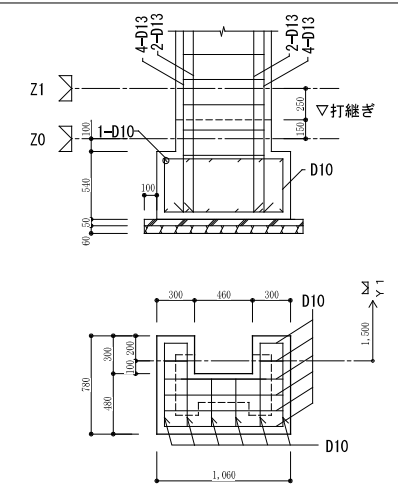
構造スリット (完全スリット)



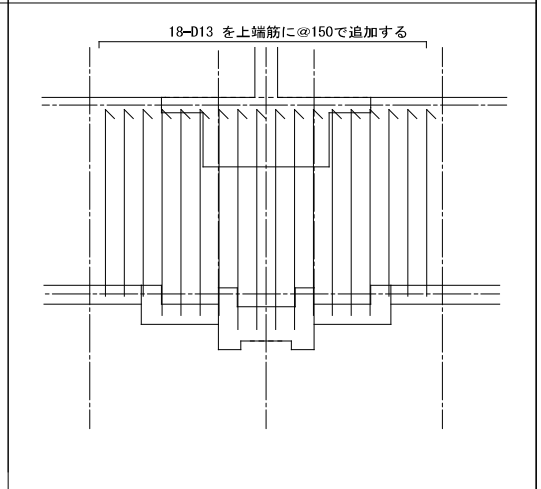
スラブ開口の補強



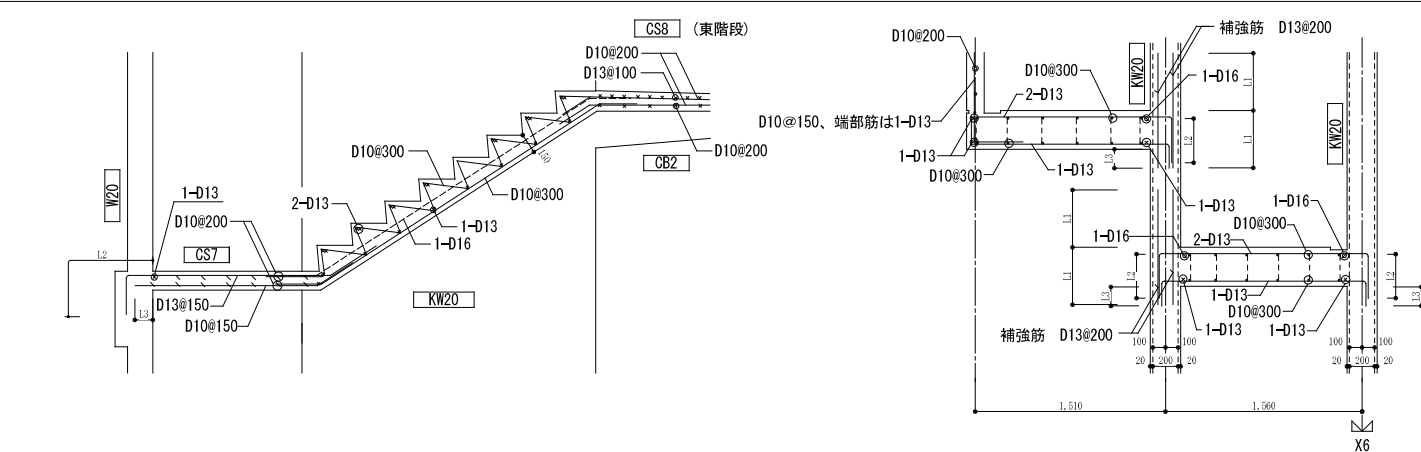
ドレイン隠し壁基礎詳細図



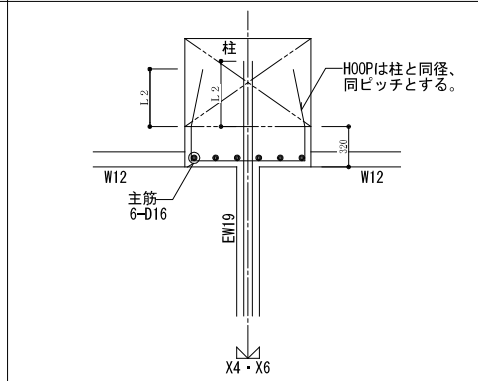
ドレイン隠し壁廻りバルコニー配筋詳細図



階段 配筋詳細1/30



柱増打



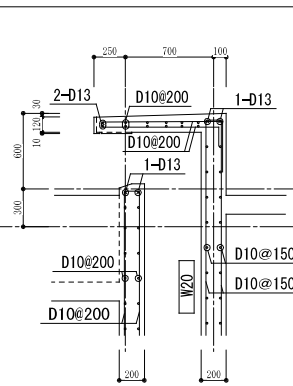
スリーブ記号	径	梁符号	梁幅B	梁成D	配筋種別
人通り	600φ	FG1, 5	550	2, 700	H10
人通り	600φ	FG2, 3	700	2, 700	H11
基礎梁	200φ	FG1, 2, 5, 7	300~700	2, 700	H7
基礎梁	150-175φ	FG5, 5A, FB4	300~550	2, 700	H6
A	175φ	G1~3	450~600	750	H6
B	125φ	G1~3	450~600	750	H6

実際の施工にあたってはスリーブの位置、径、本数、補強方法について監督員と協議を行い、承認を得ること。補強方法は計算書を監督員に提出し、承諾を得た上で既成品の使用は可能とする。

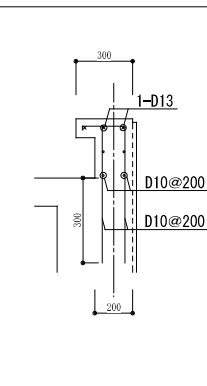
梁貫通孔の補強

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
符号	A	B	C	D	縦筋B・上下鉄筋Dは、あばら筋とする
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	一般部あばら筋
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	一般部あばら筋
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	一般部あばら筋
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	一般部あばら筋
H8	4-2-D25	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H9	4-2-D29	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	一般部あばら筋
H10	8-2-D29	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	
H11	8-2-D35	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	

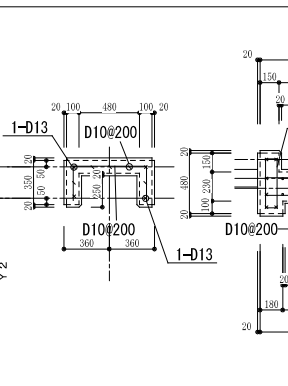
PS立上り 配筋詳細図 1/30



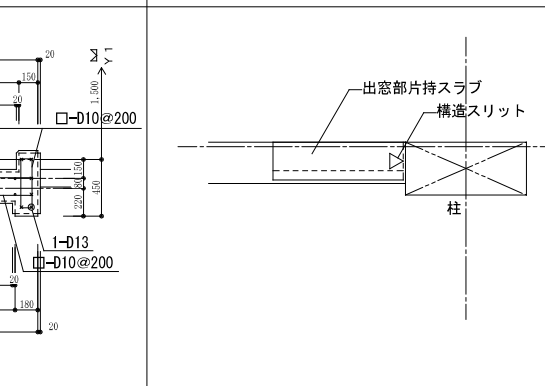
屋根妻部分詳細図 1/20



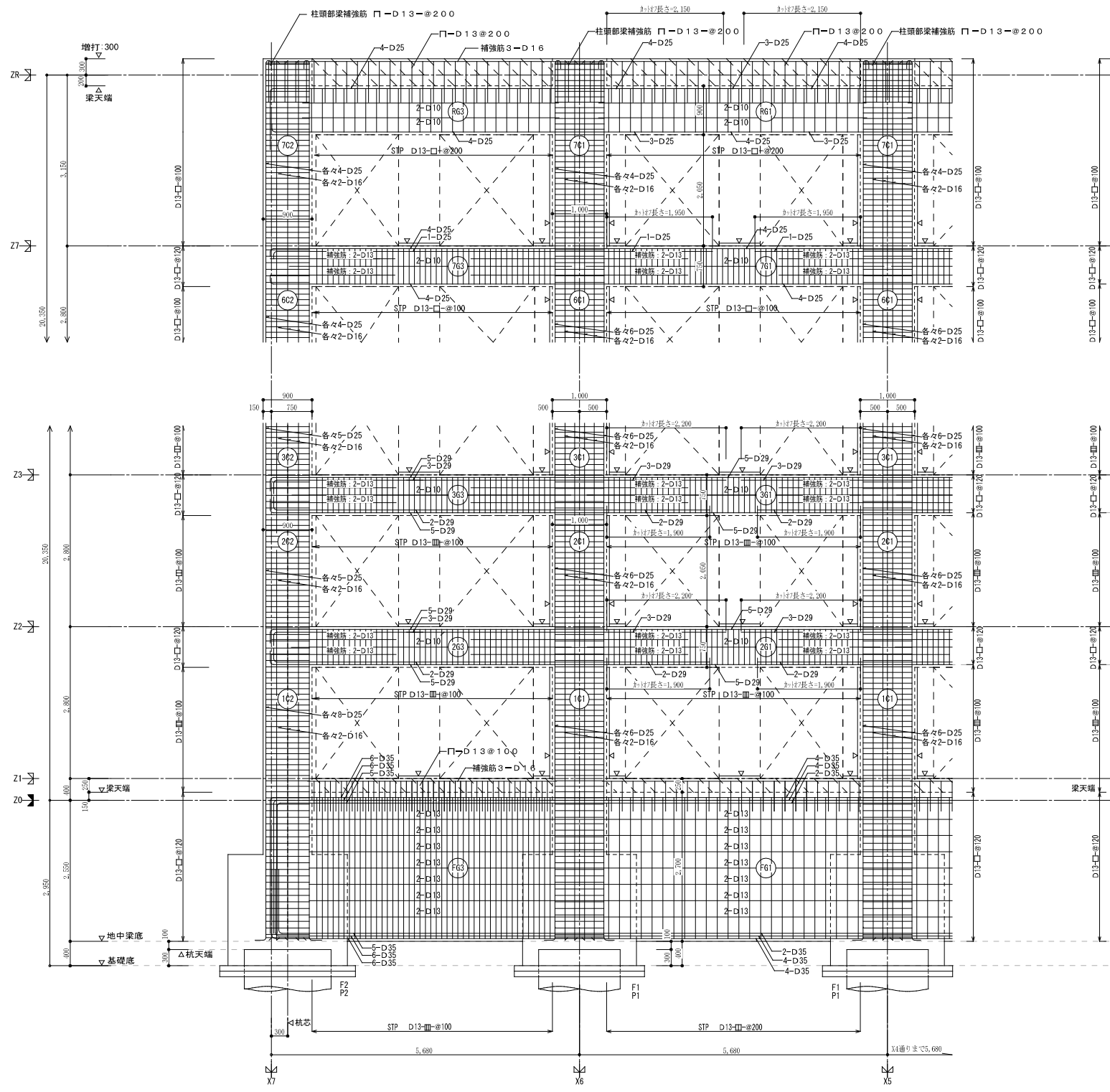
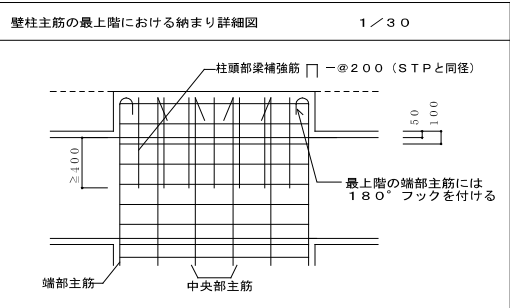
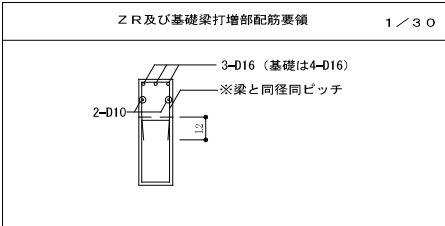
ドレイン隠し壁詳細図 1/20



出窓部片持スラブと柱接合部構造スリット図

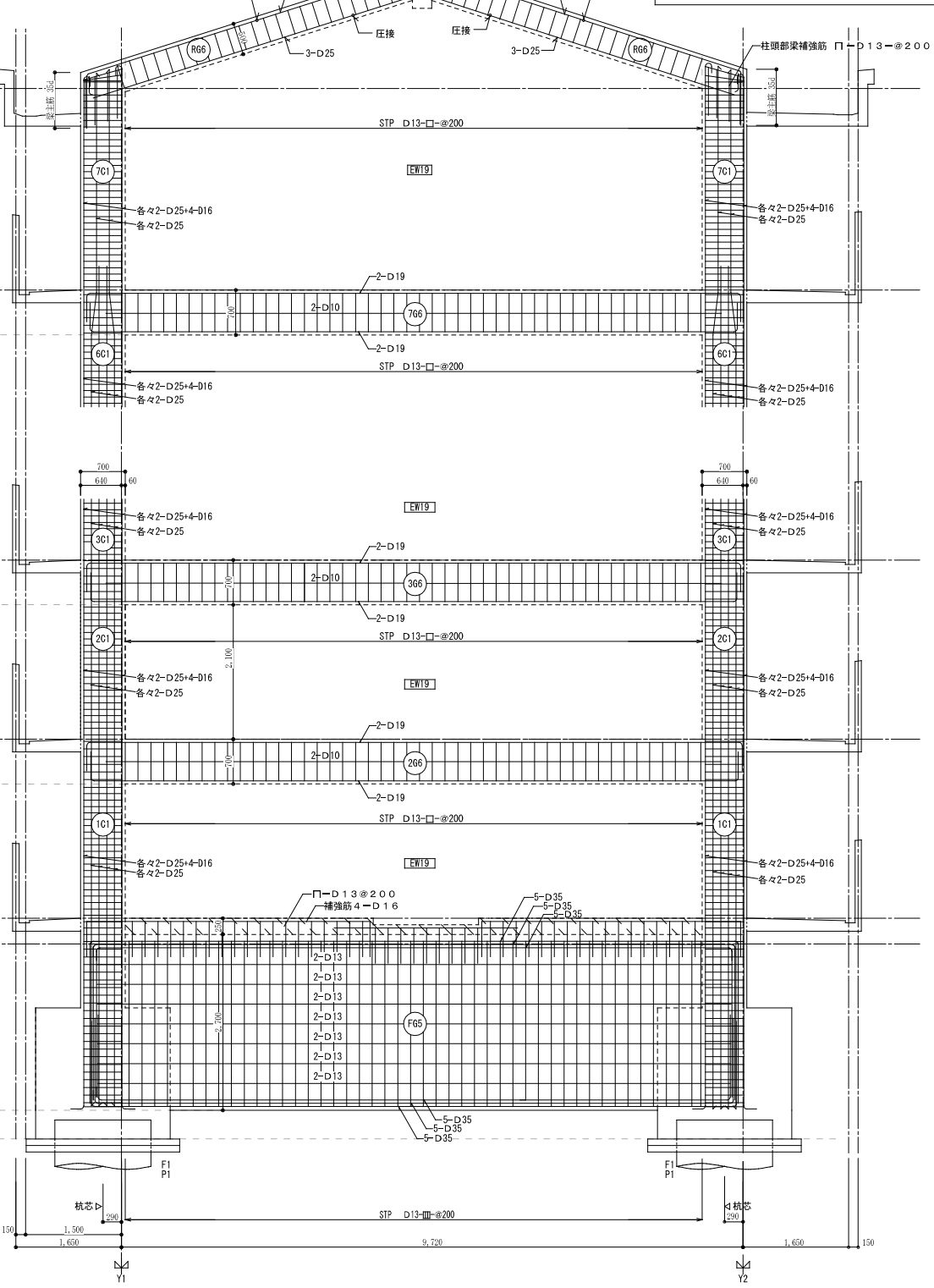


株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
【構造関係諸法に適合することを補脚】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦		一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		縮尺 A1 1/20, 1/30 A3 1/40, 1/60
検 査	製 図	設 計	No. S-10	
		H28年3月		愛知県建設部建築局公営住宅課



Y1通り梁構詳細図 1/50

- 特記なき限り下記とする。
- 壁はW1とする。
  - は増打部を示す。
  - はスリット位置を示す。
  - 2F階～7F階のY1, Y2, X1, X7通りの大梁について、腹筋は柱・梁接合部に35d以上定着させること。
  - 上記腹筋の梁部分の長さは1500以上とする。



X3通り梁構詳細図 1/50

【構造関係諸法に適合することを確認】 一級建築士登録番号 第039729号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		架構配筋図		縮尺 A1 1/30, 1/50 A3 1/60, 1/100
棟 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課		